

令和 7 年 11 月 11 日 (月)

教育センター

不登校児童生徒の保護者向け懇談会 報告書

【目的】

- ・ 児童生徒が不登校であるという事実に課題意識を持ち、状況を改善したいという思いをもって懇談会に参加してきた保護者に対して、(1)(2)を図る。
 - (1) 支援に関する情報発信を行うことによる「家庭での支援の充実」
 - (2) 同じ目的で参加した保護者との対話を通じた「孤立感の解消と精神的サポート」
- ・ 講演を経て行われる意見交換や事後アンケートを通じて、現状を把握し保護者支援の充実を検討する。

【日時】 令和 7 年 10 月 4 日 (土) 10:00-11:30

※保護者用連絡ツール (すぐーる) で周知し、電子申請システムにて受付

【場所】 豊島区立 教育センター 第 1 研修室

【内容】 ・ 講演 不登校概要 (教育センター所長)
ご家庭での支援 (不登校対策スーパーバイザー)
SSW・適応指導教室について (SSW グループ係長)
教育相談について (教育相談スーパーバイザー)

・ 意見交換、及び発表

【出席者】

- ・ 懇談会申込者 ※区内在住の不登校 (傾向含む) 児童生徒の保護者 31 名
内) 適応指導教室見学 20 名程度参加 (任意参加)
- ・ 豊島区教育委員会 指導課長、教育センター所長

【見学者】

- ・ 教育長、松宮教育委員

【主な意見の一部（懇談会、事後アンケート）】

<情報収集（講演）>

- ・不登校に対する考え方が変わり、大変よい機会になった。
- ・家庭での過ごし方、家族の関わり方のヒントが頂けて良かった。
- ・自分の考えが、自分だけのものなのか、他の保護者も持っているのかを知れた。
- ・「子どもはない状態、大人はしたい状態」の話は、不登校の子どもがいる親の多くはよくわかる内容で、言語化してもらえてよく理解できたと思った。
- ・無気力な子への特効薬はなく親のさせたいという気持ちから脱却すべきと思った。
- ・学校に行かないことをせめずに、焦らずに待つことが大切だと思った。
- ・不登校の親子は孤立しがち・共感出来る事や、自分の困りごとが明確になり、前に進む希望と勇気をもらえた気がします。
- ・もう少し時間が欲しかった。
- ・（豊島区の）教育センターのことを知らない保護者や教員は多いと思う。
- ・センターを活用するのは敷居が高いと思っていた。

<情報共有（意見交換）>

- ・SSW や柚子の木教室の存在を初めて知り、サポートがあることがわかりました。子どもにとっても安心できると思う。
- ・情報としては知っている事でしたが、気軽に相談に乗っていただける雰囲気を感じられた。
- ・特別支援の検討も考えてみたいので、就学相談も利用したいと思いました。
- ・「普通の子だから」と、SCやSSW への相談をためらっていたが、関わって貰えることがわかった。
- ・子の鬱状態を伝えても学校はSSW に繋いでくれなかった。
- ・担任に知識がなく、SSW に相談するにはどうすれば良いのかわからなかった。
- ・「適応指導教室は定員があるため、入れないと思う」言われた。
- ・学校→センターへの密な連携は教員に依存すると感じている。（すぐ連携する。連携せずもう少し様子を待ってみる）

<その他>

- ・センター所長から、豊島区の教職員への研修が実施されていると伺い、未来への希望を感じました。
- ・この懇談会が、不登校支援や発達特性のある子・保護者の支援に役立つとを願う。
- ・今後もすぐるを活用して支援を求める方に情報を届けて頂けると嬉しい。
- ・相談コーナーや、面談の予約を取ったりできるような時間（第二部のようなイメージ）があったらなお良いと思った。